ふくしま市男女共同参画情報紙

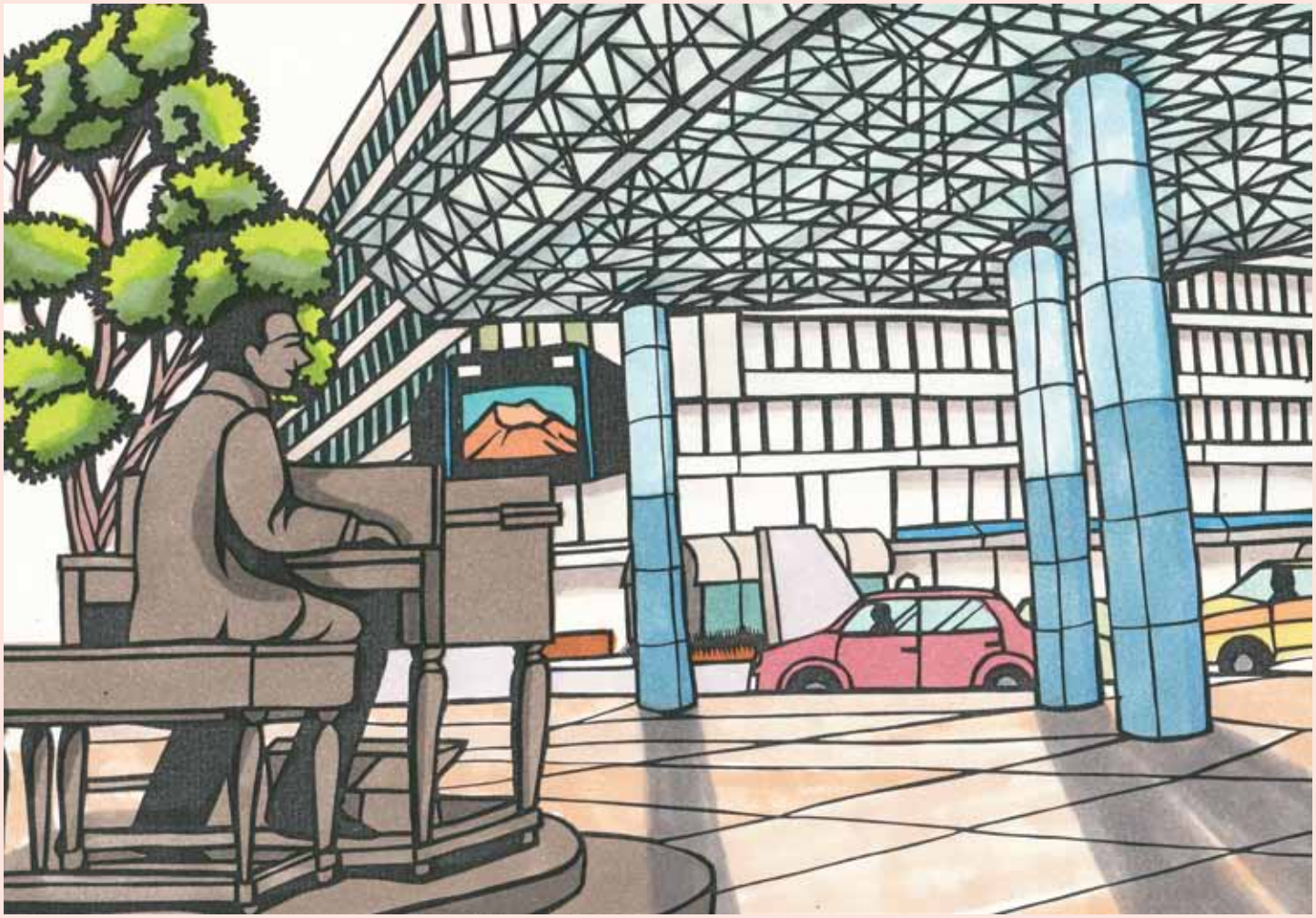
しゃぼてぴあ

No.32
2010
SPRING

特集１　福島市の今…さて、あなたは？　～市民意識調査の結果より

特集２　男女共同参画についての「あなたからのメッセージ」作品紹介

私のホームタウン・福島　～人と人とをつなぐ架け橋に　後藤　真 さん



福島駅東口駅前広場（古関裕而 生誕100年記念モニュメント）

福島市の名誉市民　古関裕而さんの生誕100年を記念し、福島駅東口の駅前広場に設置されたモニュメントで、決まった時刻に古関メロディーが流れます。

これからの季節、JR の発車メロディー（「栄冠は君に輝く」「高原列車は行く」）とともに多くの観光客の心に響き、「福島のイメージ」をさらに膨らませてくれることでしょう。

福島市の今…さて、あなたは？

市民の皆さんが男女共同参画についてどう考えているか、アンケートを行いました。結果がまとまりましたのでその一部をご紹介します。

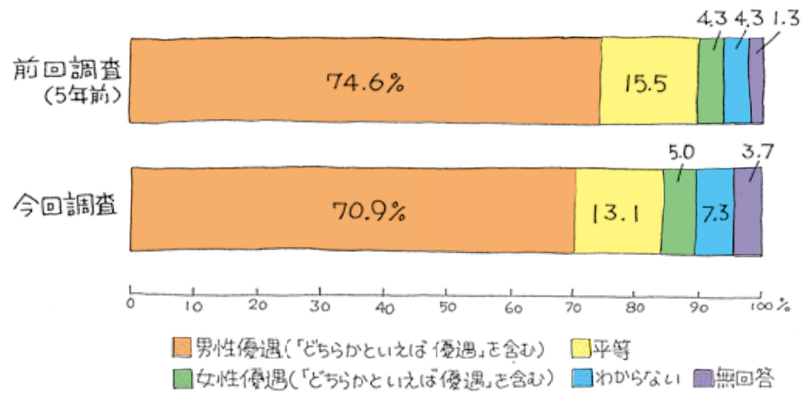
この5年間にどのくらい変わったのかな。

1. 男女の平等意識

日頃不平等を感じる事ありますか。

5年前も今回も男性優遇と考えている人が7割を超えているんだね。

社会全体では



どんなところで男性優遇を感じますか？

順位	項　　目
1	社会通念・慣習・しきたり
2	政治の場
3	職　　場
4	家庭生活
5	法律や制度上
6	社会活動の場
7	学校教育の場

う～ん。たしかに減ってはいるんだけど、まだまだかな。

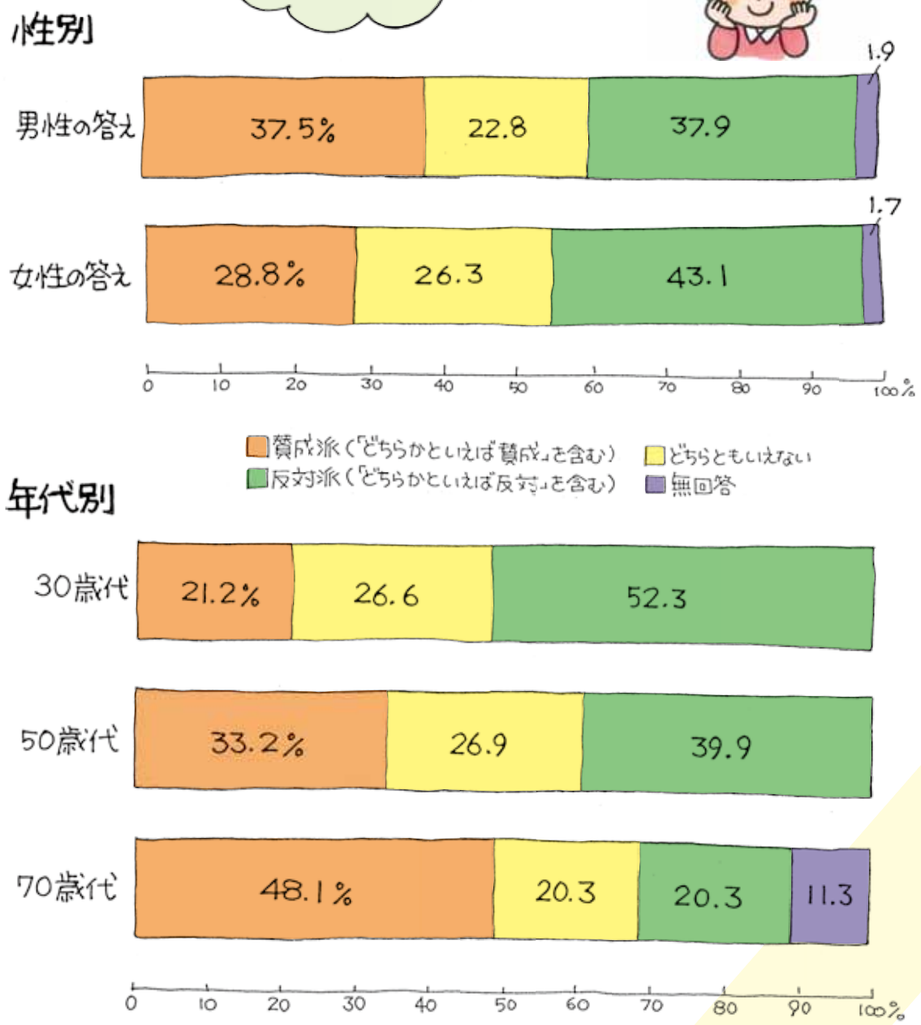
「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」で特に男性優遇と感じる人が多いみたい。

2. 性別に基づく役割分担意識

「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方に賛成ですか、反対ですか。

女性は反対が多いのに男性は賛成と反対が同じくらいだね。

年代別だと年代が上がるにつれて、賛成が増えていくのね。

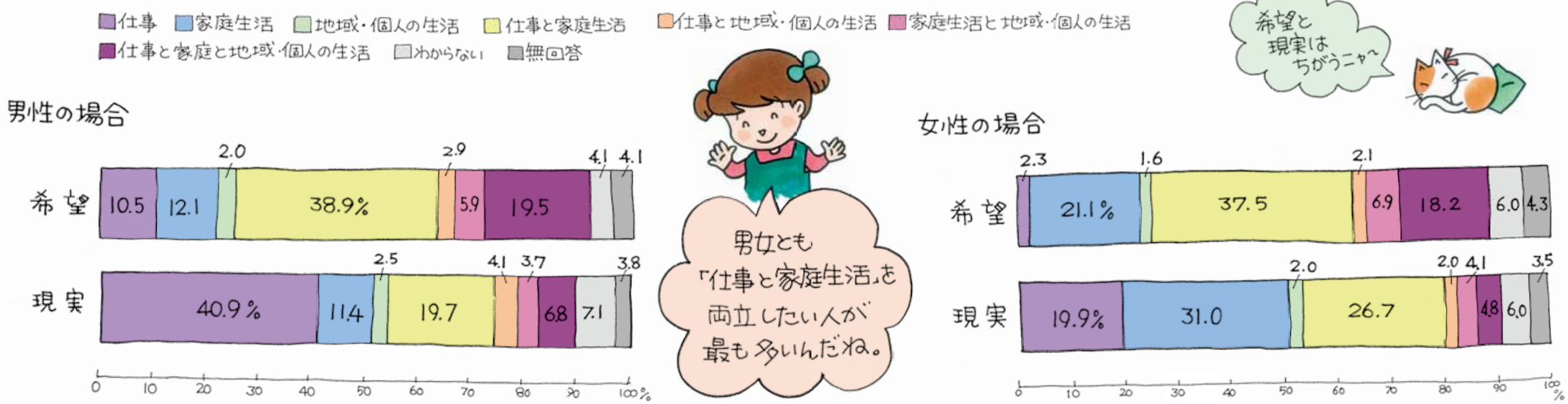


男性と女性、それぞれ実際にはどういう生活を望んでいるのかな。

このアンケート『男女共同参画に関する意識調査』は、平成23年度を初年度とする、男女共同参画を進めるための新たな基本計画「男女共同参画ふくしまプラン」を策定するために行ったものです。
結果は福島市のホームページにも掲載しています。

期　間　平成21年７月
対　象　無作為抽出した満20歳以上の福島市民
　　2,600人（男女 各1,300人）
回収率　52.4%（1,362人）

3. あなたの生き方の優先順位は？・その希望と現実。



男性も「家事」、「子育て」、「介護」、「地域活動」などに積極的に参加するために必要なことは？

主な項目	順位 男性の考え	順位 女性の考え
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	1	1
労働時間短縮や休暇制度を普及させ仕事以外の時間を多く持てるようにする	2	4
社会の中で男性による家事、介護、地域活動についてもその評価を高める	3	3
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	4	2
年配者やまわりの人が夫婦の役割分担等について当事者の考えを尊重する	5	5

女性が働き続けるために必要なことは？

主な項目	順位 女性の考え	順位 男性の考え
労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど働きやすい労働条件とする	1	1
育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する	2	2
家族の理解や協力を得る	3	7
託児施設、託児サービスを充実する	4	4
育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	5	5
家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める	6	10
賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす	7	3

子育て期など、人生のいろいろな段階で、その状況に合わせて生き方や働き方を選ぶことができることを**「ワーク・ライフ・バランス（「仕事と生活の調和」）が実現した社会」**といいます。

皆さんはこの調査結果をどのように感じましたか？
すべての人が個人として尊重され、性別にとらわれることなく、自分らしく伸びやかに生きることができる社会を実現するためには、ワーク・ライフ・バランスはとても大切なことです。
この機会に、家族やまわりの方と話し合ってみてはいかがでしょうか。

男女共同参画についての

「あなたからのメッセージ」

男の人も女の人も協力しながら、平等で自分らしく心豊かにいきいきと暮らすことのできる社会についてメッセージを募集しました。

今年度は４部門に合わせて423点の応募があり、平成21年７月18日の「男女共生セミナー・市民フォーラム2009」において展示・表彰を行いました。また、「コラッセふくしま」や「こむこむ」においても展示をしました。受賞作品の一部をご紹介します。

小学生の部

最優秀賞

御山小学校２年
佐藤　優光さん

優秀賞

蓬莱東小学校５年
藤原　優香里さん

吉井田小学校４年
伊藤　美優さん

家でのお手伝いや友達と遊ぶ中で、「みんなで協力しあう」ということの大切さを見つけることができたのは素晴らしいことだと思います。（しのぶぴあ編集委員）

中学生の部

福島第一中学校１年
原田　優花さん

福島第一中学校３年
佐川　慧さん

福島第一中学校２年
坂本　華菜さん

毎日の学校生活を通して、仲間を認め合う気持ちが育まれているんですね。

笑顔でいることが、心豊かに生きるための第一歩、と気づかされました。

（しのぶぴあ編集委員）

高校生の部

福島明成高等学校
１年　佐久間　涼夏さん

福島明成高等学校
１年　佐藤　如美さん

福島明成高等学校
１年　小原　美穂さん

男性や女性という性別の枠組みにこだわらない発想が素敵です。固定観念にとらわれない柔軟な感性を持ち続けて欲しいと思います。（しのぶぴあ編集委員）

一般の部

最優秀賞

鈴木　幸一さん

優秀賞

後藤　るみ子さん

加藤　幸枝さん

日々の暮らしのひとコマにさりげない優しさを感じます。

いろいろな分野に男女がチャレンジすることは、互いを思いやる「気づき」を生み、より豊かな社会ができていく秘訣なのかもしれません。

（しのぶぴあ編集委員）

▲募集チラシ：虹色のランドセルが目印です。

▲選考会：力作ぞろいで選ぶ側もたいへんでした。

▲表彰式：瀬戸市長から入賞者一人ひとりに賞状・記念品が贈られました。

▲展示：会場には全作品を展示しました。

私のホームタウン・福島 ～人と人とをつなぐ架け橋に

家庭・職場・地域などあらゆる場面において、より良い人間関係を築くことは大切です。これから、入学や就職、引っ越しなど、環境の変化の多い季節を迎えます。そこで今回は、臨床心理士でもあり、まだ数少ないプロのファシリテーターとして活躍されている後藤　真（ごとう まこと）さんにお話をうかがいました。

どのような活動をされていますか

カウンセリングをしていて、もっと早くにお話できていればと感じることがあります。人生の早い段階に関わりたいと思い、スクールカウンセラーやハローワークの若年求職者心理相談アドバイザーをお引き受けしています。

また、さまざまな場でのコミュニケーション技術を広めることが必要だと感じ、講演やワークショップ（実践型学習）を行っています。

今の道に進んだきっかけは

やりたいことを模索する中で進学したアメリカの大学で、友人から勧められた授業を受けたのがきっかけでした。

そこで、自分の起源、たどってきた人生を徹底的に分析するという、いわば「自分の考古学」みたいなものをやっていく中で、カウンセリングや心理学の重要性を感じ、この世界へ進みました。

大学院では、うまくいかなくなった家族や夫婦関係を作り直す方法の研究を行い、そこでファシリテーションを学びました。

ファシリテーションとは

「話し合いや学びの場において、参加者全員の［聴く］と［話す］のバランスをとりつつ、円滑なコミュニケーションを促進するための技法」だと思っています。

どんなに小さな声でも、例え怒鳴り声であっても、「Voice is Voice（声は声）」それをきちんと拾い、みんなに届くよう目配り・心配りをすることが私にとってのファシリテーションです。

「コミュニケーション」とは

相手の思いを受け止め、自分の思いを伝える「言葉のキャッチボール」だと思っています。

コントロールはいいに越したことはない。球種は豊富な方がいい。でも、一番大切なのは「キャッチ」することです。

自己肯定感の問題ともつながりますが、現在の日本の価値観には主語が抜けていると思います。特に忘れられているのが、コミュニケーションに一番大切な一人称である「私」だと思います。

一人称としての自分を大切にする。そこには、性差はなく、「人として」「私として」だと思います。

そうしない限り、「あなた」や「彼」「彼女」を大切にすることは難しいと思います。

これからの目標は

プロのフリーランサーとして「ノマド（遊牧民）」のように幅広いフィールドでコミュニケーション向上のために活動していきます。

しかし、「自分を育ててくれた故郷に何かを返したい」という思いから福島市に帰ってきたので、活動はどれだけ広がっても軸足はここに置いて恩返しをしていきたいと思っています。

《取材を終えて》

悩み、模索する中でいろいろな人と出会い、その言葉に促され行動することで人生を拓いてきた方だと思いました。だからこそ、「コミュニケーション」や「声」を大切にできるのではないかと感じました。

そして、自分が育った町に、自分のできることで積極的に寄与されていることは、素敵なことだと思います。穏やかな語り口の中に、熱意が伝わってきました。

今、私ができることは何だろう。自分が暮らす「まち」のために何かできればという思いで応募し、初めて関わった編集作業を通して、あらためて人の考え方の多様性を感じました。

違いがあるからこそ、互いを理解し、受け止めることに意義があると思います。

『その一歩は、自分を認め、大切にすること。それが、他人を大切にし、自身も大切にされることにつながる…』

後藤さんにお話を伺い、「自分」を大切にすることは、めぐり廻って人の和を創り、大きな輪となり、思いやりのある住みやすいまちを創ることにつながると思いました。

淡くやさしい花色につつまれる福島の春。美しい花々を眺めながら、「自分」を見つめなおしてみようと思います。

編集

しのぶぴあ編集委員会

加藤麻里　佐藤映枝　松本　恵
河原　泉　菅野綾子　佐藤雅一

表紙：切絵作家のさとうてるえさんの作品です。

※「しのぶぴあ」は町内会回覧のほか、各学習センターなど市の窓口に置いてあります。
また、市のホームページでもご覧いただけます。

福島市総務部男女共同参画センター
ウィズ・もとまち

発行　福島市総務部男女共同参画センター
〒960-8035　福島市本町２番６号　Tel 024-525-3784　Fax 024-522-1528
ホームページ　http://www.city.fukushima.fukushima.jp/